ＮＰＯ法人　口から食べる幸せを守る会

2013　SEPTEMBER

vol.1

No.1

食べる

“口から食べることは生命を育む根幹である”
美味しく食べることは、今ここにある喜びを噛みしめることであり、生きる希望である
「口から食べて幸せに暮らせる優しい社会」になるよう力を注ぎたい！

季刊ニュースレター　創刊号　2013年秋

KTSM 組織概要

組織図を作成しました。各支部長、統括者よりご挨拶させていただきます。
P2～

KTSM 会員の状況

9月18日現在、会員数は200名になりました。入会動機など皆さんの声をお聞きください。
P8～

NHK ニュースウォッチ9

東名厚木病院と当法人の活動が紹介されました。
P12～

KTSM 第1回大会

*7月13日*横浜市開港記念会館にて開催されました。
P14～

第1回実技セミナー

*7月14日*神奈川県立保健福祉大学にて開催されました。
P15～

KTSM 人材育成
（東名厚木病院での実務研修）

実際に小山道場をくぐった方々の感想をお読みください。
P17～

ありがとうの声（患者さんからのメッセージ）
患者さん、ご家族の率直なお気持ちが綴られています。
P21～
事例から学ぶ！食べることへのチャレンジ
この患者さんは如何にして、「食べる」ことが出来たのだろうか？
P22～

KTSM 今後の活動概要

今後の講演会、実技セミナーの予定をお確かめください。
P28～

KTSM 運営委員一覧

組織図に名前のある会員の所属、職種です。
P29

◆KTSM 組織概要

「NPO 法人　口から食べる幸せを守る会」をより強固な組織にし、日本全国で「口から食べること」が叶わないでいらっしゃる方々へのサポート体制を構築するため、以下のように組織化致しました。

NPO法人　口から食べる幸せを守る会　組織図（1）

理事会

- 理事長　小山珠美
- 副理事長　横山信彦
- 副理事長　安西秀聡
- 理事　桐山誠一
- 理事　中村美千子
- 理事　小山　碧
- 理事　芳村直美
- 監事　田口　哲
- 社員　野村直樹
- 社員　黄金井　裕

運営本部

- 統括　小山珠美
- 補佐　横山信彦
- 補佐　安西秀聡
- 一瀬浩隆
- 黄金井　裕
- 小山　碧

会計

- 統括　小山　碧
- 補佐　横山信彦

会計監査

- 田口　哲

KTSM大会事務局

統括　安西秀聡

- 横山信彦
- 一瀬浩隆
- 黄金井裕
- 藤本篤士
- 水戸優子
- 安東則子
- 中村悦子
- 内片健二
- 小山碧

KTSM支部

厚木地区	野村直樹	山下　巌	芳村直美	黄金井　裕
北海道	藤本篤士			
東北	成田徳雄	谷合久憲	一瀬浩隆	
関東	古屋　聡	内片健二	白坂誉子	大石朋子
中部	洪　英在	青山寿昭	奥村圭子	
北陸	野口　晃	中村悦子	安東則子	福村美紀子
関西	荒金英樹	谷　恭子		
中国四国	三村卓司	為季周平	竹市美加	川端直子
九州	横山信彦	横山葉子	石坂俊輔	鍵山智子
	竹末加奈	嶋津さゆり		
沖縄	吉田貞夫	社本　博	大城清貴	内間全美

NPO法人　口から食べる幸せを守る会　組織図（2）

実技セミナー事務局

統括　小山珠美

- 水戸優子
- 芳村直美
- 大石朋子
- 竹市美加
- 白坂誉子
- 川端直子
- 大城清貴

KTSM実技認定

統括　小山珠美

- 水戸優子
- 竹市美加
- 川端直子
- 芳村直美
- 大石朋子

相談対応（KTSMマップ作成）

統括　青山寿昭

副統括　横山信彦

- 安西秀聡
- 谷合久憲
- 三村卓司
- 白坂誉子
- 川端直子
- 甲斐明美
- 大城清貴

学術

統括　横山信彦

- 古屋聡
- 吉田貞夫
- 藤本篤士
- 竹末加奈
- 水戸優子
- 小山珠美
- 横山葉子
- 安西秀聡

- リサーチ 統一基準作成 多施設共同研究
- 学会対策
- 厚生労働省 行政対策

広　報

統括（対外対応）藤本篤士

統括（組織内対応）安西秀聡

- 一瀬浩隆
- 黄金井裕
- 吉田貞夫
- 社本博
- 野口晃
- 荒金英樹
- 嶋津さゆり
- 中村悦子
- 福村美紀子
- 谷恭子
- 石井良昌

- メディア 取材
- 企業
- ホームページ
- 各県研究会 団体への 働き掛け
- 会員広報

最優先かつ重要な活動として、ＫＴＳＭマップ（口から食べるための相談受け入れをしてくれる施設や人材）を都道府県別に早急に作る必要があります。現在，東名厚木病院に相談が集中していますが、相談症例の中に該当する地区の患者さんがいらっしゃった際に早い段階での対応が出来るようにする環境整備を行います．

既に、摂食嚥下認定看護師会の会長をされている青山寿昭さんにはＫＴＳＭマップ作成と施設開拓に着手していただいております。今後統括、副統括、各地区の支部長がリーダーとなっていただき、更なる受け入れ施設開拓と情報提供を行うという構想です。

また、並行してＫＴＳＭの広報、講演会、実技セミナー、会員広報、そして、将来的には多施設共同研究へ向けての窓口になっていただきたいと思います。皆様，ご協力のほど何卒よろしくお願い致します。

＜支部長挨拶＞

厚木地区　野村　直樹

社会医療法人社団三思会　東名厚木病院　総合内科　医師

NPO 法人、“口から食べる幸せを守る会”の設立、とてもうれしく思います。必然ありての組織であると思います。日本はいよいよ、いかなる国も一度として経験したことのない高齢化社会に突入します。そして cure から care へシフトしていく医療、介護、福祉の中で何を大切にするのか。大きな転機を迎えています。その中で人が最も自然で、生きていく糧となるのが“食べる”ことです。医療や介護の立場で“食べる”ことの尊厳を尊重すること。われわれが今まであまりに無知であった過去への反省、“食べる”ことの重要性を知った現在、そして“食べる”ことによる大きな大きなあらゆる可能性のある将来に向けて発進しました。道のりはそう簡単なものではないかと思いますが大きく広がりあるものになることを期待しています。微力ながら可能性ある将来の夢？にお役に立つことが出来ればと思っています。

北海道支部　藤本　篤士

医療法人渓仁会　札幌西円山病院　歯科診療部長　歯科医師

北海道支部の支部長を務めさせて頂くことになりました。北海道は冬場の移動が難しいというような独特の気候条件や、広大な地理的なハンディキャップ、医療施設の分散や不足などからか、このような活動はどうしても限定的となり、まだまだ広がりが少ない地域となっております。今後、小山理事長の熱い思いと技術を少しでも広げることができるよう、微力ながら活動をさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

東北支部　成田　徳雄

気仙沼市立病院　脳神経外科科長　医師

（宮城県災害医療コーディネーター）

東日本大震災の発災以降、気仙沼に直接お越しいただき、さらには後方で支援をしていただいた小山理事長始め多数の KTSM 会員の皆様方には心より感謝申し上げます。皆様方にご支援いただき、“口から食べる”取り組みが気仙沼で確実に根付きつつあるように実感しております。厚く御礼申し上げます。またその取り組みは、気仙沼における医療・介護・福祉の垣根を越えた地域包括ケアシステム構築のためのヒューマン

ネットワーク形成に大きく寄与していることも確かであります。月一回の合同症例検討会の継続的な運用と共に、本年9月より気仙沼市立病院脳神経外科で在宅療養および介護施設入所者の摂食嚥下機能再評価・再訓練パス入院の運用を開始します。多重的多相的な柔軟かつ効率的なケアシステムを目指すものであり、気仙沼から地域包括ケアの先進事例として情報発信できるように努めていきたいと考えています。今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。

関東支部　古屋　聡

山梨市立牧丘病院　院長　整形外科・総合内科　医師

無床診療所から現在の病院に来た7年前、ご飯を食べられずに病院で亡くなっていく高齢者を診てつくづく思った。「ベッドをもたないでやってきた自分の在宅医療はいいとこ取りだった。」　明確な意志で、在宅で逝ける人を看とり、あれこれ悩み最終的に決定できない方は病院に送れば済んできたからである。病院でも、家族も医療者も悩みながら、何がベストかわからない状態で医療処置を施し、多くの高齢者を看とってきた。

「口から食べさせる」技術がないなかでの、非経口による栄養方法の模索は、本人の希望がわからない状況下ではむしろ残される人のほうの自己満足か虐待にみえる。現在の状態のなかでベストに口から食べ物をとっていければ、何よりのご本人の尊厳が守られていると思う。余計な 処置など考えなくてもいいかもしれない。「口から食べる喜び」をできるだけ確保し、何よりもご本人の尊厳を守ることができる医療者でいたいと思っている。

中部支部　洪　英在

独立行政法人　国立長寿医療研究センター　医師

愛知県支部代表を不肖ながら仰せつかりました、洪（ほん）と申します。知多半島では、口から食べ続けること、また、在宅、病院のつながりを意識して、２０１２年３月より「在宅栄養支援の和・愛知」が活動を開始しています。顔の見える関係作りから開始し、２０１３年度は、同行研修などの人材育成や、食支援の地域資源マップ作成、会のメンバー派遣による食支援の実践などを行う予定となっています。KTSM の活動と大いに重なる部分があり、KTSM の活動と「在宅栄養支援の和・愛知」の活動をコラボしつつ、愛知県全域が、口から食べる幸せを守ることが当たり前になる地域になるように、活動していきます。よろしくお願い致します。

北陸支部　野口　晃

志賀町立富来病院　内科　医師

石川県能登半島の富来病院（病床数 98 床）で内科医として働いている野口晃と申します。去年輪島病院で小山珠美さんの口腔ケアや食事介助を拝見させていただいた時は衝撃でした。ケア時のセッティングの緻密さ、まるで早回しの映像を観ているような動きは、内視鏡検査や手術と同様にアートだと感じ圧倒されました。今年 5 月小山道場の門をたたき、開眼アシスト、左手による食事介助、スプーン 2 つ使い、茶碗２個持ちなどの介助技術を学び、食べられない理由を探さず、どうすればより食べられるか考える態度を学びました。今までよく肺炎の患者さんに絶食指示を出していた自分が恥ずかしくなりました。できない理由を探さず、できる事を探し求め、安易な絶食指示を出さずに、絶対食べていただくという熱意を持つ医師となり、みんなで口から食べる幸せを共有できる病院、地域、社会をつくっていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

関西支部　荒金　英樹

一般医療法人　愛生会山科病院　外科　医師

（京滋 摂食・嚥下を考える会　代表世話人）

私は急性期一般病院で消化器外科に従事し、がん治療、がん患者さんの栄養療法を専門とし、院内では栄養サポートチームの活動の中で、メディカルスタッフに支えられ、摂食・嚥下の問題にも取り組んでいます。不思議な縁から摂食・嚥下の問題に不見識な自分が京都府、滋賀県で「京滋摂食・嚥下を考える会」の代表世話人となり、皆様にご迷惑をおかけしながらも、地域連携の仕組み作りに挑んでいます。幸い京都府、滋賀県は古くからの多彩な文化が華やぐ地域です。京料理による嚥下食のお弁当、とろみ茶に和菓子、伝統工芸による介護食器などなど、医療、介護の枠を超えた多職種による食支援という野望を多くの同志と夜な夜な画策しています。摂食・嚥下「障害」は、いつか自分にも訪れる「生理現象」なのかもしれません。自分達がその状態になるまでに野望を実現し、自分にも高齢者にも優しい、夢のある豊かな食文化が花開くよう願っているというのが本音です。

中国四国支部　三村　卓司

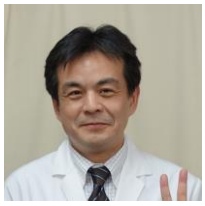
社会医療法人緑壮会　金田病院 外科　医師

初めまして。岡山県真庭市の金田病院、三村卓司と申します。いつも多くの皆様のご協力により、岡山県北を中心にいろいろと活動させていただいています。心から感謝いたします。このたびは僭越ながら KTSM 中四国地区の長を拝命いたしました。

KTSM、実は中国四国地区は以外と会員が少なく、これからしっかりやりなさい、と宿題を与えていただいたものとして、小山先生の熱いご指導の下で、KTSM の使命を果たすべく、可能な限り尽力させていただきたいと心に誓うところであります。出来るだけ早いうちに中国四国でも支部会開催をもくろみ、皆さんのお役に立てますようにがんばる所存です。いろいろとまたご協力をお願いすることもあるかと存じます。しっかりと口から食べる幸せを守る事を実践していきたいと思います。皆様と共に KTSM を盛り上げていきたいと思います。

九州支部　横山　信彦

特定医療法人社団三愛会　誠愛リハビリテーション病院　医師



今を遡ること７年前、縁あって脳卒中リハビリに携わるようになりました。それまで全く縁が無かったリハビリの世界でしたが、思い描いていた期待とは全くかけ離れた現実に愕然としました。目標も結果責任も明らかでない漫然としたリハビリが行われ、リハビリ漬けとされた挙げ句に期限が来たら病院を追い出される患者さんの多いこと！　絶望の淵に沈んでいく患者さん・ご家族の思いが、自らの胸のうちに重く鉛の様に沈殿していくようでした。また、超高齢化社会にあって限りある医療資源を無駄に使い続けられるはずもない。そうした思いはやがて「日本のリハビリをどげんかせんといかん！」という信念となり、昨年夏の小山珠美さんとの出会いによって NPO 法人「口から食べる幸せを守る会」の設立へと昇華しました。思い起こせば不思議な縁です。患者さんとの出会い、仲間との出会い、たくさんの巡り会いに導かれていま在ることを、文字通り「有り難い」と思っています。九州の地にあって、「どげんかせんといかん！」を合い言葉に、最後まで食べる幸せが叶えられる社会の実現にむけて尽力します。どうか今後とも宜しくお願いいたします。

沖縄支部　吉田　貞夫　　医療法人タピック　沖縄リハビリテーションセンター病院 内科　医師

おいしいものを食べる喜び、親しい人たちと一緒に食事をする楽しさ、好きなものを好きなように食べる選択の自由などを通して、「食べること」は、人としての営みを再確認し、人としての尊厳を維持する大切な行いだと思います。脳血管障害や認知症などにより、食べる行為に障害をもつ患者さんたちのケアには、何とか食べてもらうための技術、食品選択のための知識、そして、いつの時代にも変わらぬ情熱が必要です。近年、認知症高齢者の胃瘻に、否定的な意見も聞かれています。胃瘻を使用せず、口から摂取する栄養で高齢者を支えていくためには、ますます、正しい知識と技術が必要です。沖縄県においても、この会の活動が浸透し、より多くの患者さんの幸せにつながるよう、微力ながら尽力したいと思います。沖縄支部は、小山珠美先生のお膝元、神奈川県に次ぐ会員数で、医師、歯科医師、看護師、管理栄養士、言語聴覚士ほかのリハビリ・スタッフなどを含む多彩な職種が活動に参加しています。来年夏には、実技セミナーも開催予定です。沖縄の「結（ゆい）」の精神で、力を合わせて頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

＜統括者挨拶＞

広報（渉外担当）藤本　篤士

広報（渉外担当）の統括を担当させて頂くことになりました。小山理事長の思いや、全国大会や実技セミナーなどの KTSM の活動をテレビ放送や新聞、医療系の月刊誌などを中心に、医療界のみならず日本全国の全ての方々に幅広く紹介できるよう務めさせていただきたいと思っております。現在のところ記事を掲載していただいているのは看護や歯科関係のメディアが中心となっております。医師やリハ関係のメディアへの展開も重要と考えておりますので、皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

広報（組織内担当）安西　秀聡　医療法人社団明芳会　イムス三芳総合病院　消化器内科　医師

広報（組織内担当）の統括を担当させて頂くことになりました。９月１８日現在、会員は２００名となりました。沢山の思いを同じくする方々に、タイムリーかつ有用な情報をご提供できるように、本部事務局と連携して各種アナウンスメントを行って参ります。

KTSM 実技セミナー・実技認定　小山珠美　　東名厚木病院　摂食嚥下療法部　看護師

＜実技セミナー＞

第１回大会後のアンケートで、KTSM に期待することの中で最もニーズが高かったことは、実技セミナーを全国で開催してほしいということでした。現時点では基礎コースとアドバンスコースの２つを計画しています。少人数制の演習形式で行うため、（看護学校や病院での）場所の選定、アドバイザーの確保が難しく、参加料金も高額とならざるを得ないことが課題ですが、今後は会員の多い地区から順次セミナーを開催していく予定です。来年は神奈川、沖縄、福岡で順次開催予定です。アドバイザーから次の KTSM 実技認定者を増やすためにも、ぜひ実技セミナーにご参加ください。

＜KTSM 実技認定＞

KTSM の実技認定者の育成及び登録を予定しています。認定者には認定証を発行し、ホームページでの登録および講習会や実技セミナーでの講師をお願いしたいと考えています。来年早々に作業に入る予定ですので、実技セミナーと研修を終えた方はお申込みをお願いします。実技認定者は以下の要件を検討しています。

①ＫＴＳＭ会員

②東名厚木病院での実務にあたっている（いた）、もしくは、3 日以上実務研修をうけた

③研修終了後のレポートを提出した

④実技セミナーを受講した

⑤実技セミナー受講後に実践症例を提出した（３症例報告書を提出）

⑥自組織への働きかけや勉強会などの企画を行い実践した（院内外どちらでもよいが、企画書と実施概要書を提出）

KTSM マップ担当　青山　寿昭

愛知県立がんセンター中央病院　看護師

愛知県がんセンター中央病院で摂食・嚥下障害看護認定看護師として活動をしております青山寿昭です。頭頸部癌術後、食道癌術後、終末期などのがん患者の嚥下障害を中心に関わり、現在は NST 専従として活動をしております。入院中からの関わりはもちろん、退院後のサポートも視野に入れ、栄養・嚥下外来や患者会などを通して嚥下障害患者の食の QOL 向上を意識しています。KTSM では嚥下障害患者受け入れ施設の MAP を作成するという重大な役割を頂きました。摂食・嚥下障害看護認定看護師は全国で活動しており、そのネットワークを使うことで全国規模の MAP を作成することができるのではと考えております。もちろん、MAP 作成に多くの方々の協力が必要であり、使用方法も十分な検討が必要だと思います。課題は山積みですが、皆様のご指導を頂きながら、嚥下障害患者の「食べたい」が叶うよう進めたいと思います。

KTSM大会事務局　安西　秀聡

2013年の第１回大会は皆様の熱い想いが結実し、盛会のうちに終えることができました。ご参加いただいた皆様、ご協力いただいた皆様に改めまして、心より感謝申し上げます。2014年の大会は7月12日（土）13日（日）の2日間、神奈川県横須賀市　神奈川保健福祉大学を会場に開催いたします。「誤嚥性肺炎」をメインテーマに掲げ、医療関係者のみならず多方面の方々にご登壇いただく予定です。第１回大会の運営を省みつつ、ご参加いただく全ての方が満足頂けるように、プログラムを充実したものにしていきたいと考えています。次回はポスターセッションも時間を大幅に確保し、沢山の方々にご発表いただきたいと思います。大会は、「口から食べる」という当たり前のことを当たり前にできる社会を作るため、多くの方々に理解していただく大事なアピールの場になります。会員の皆様のみならず、周りの方もお誘い頂き、多くの方々にご参加いただきたいと存じます。今後とも皆様の益々のご協力をお願いいたします。

KTSM事務　小山碧

NPO法人口から食べる幸せを守る会の事務・会計を担当しております。医療や摂食・嚥下に関しては素人ですが、さまざまな場面で活動がより円滑にいくようサポートしていきたいと思います。 そして、当会の必要性をもっと多くの方に知っていただけるよう努めさせていただきます。運営委員の皆様・会員の皆様、宜しくお願い致します。

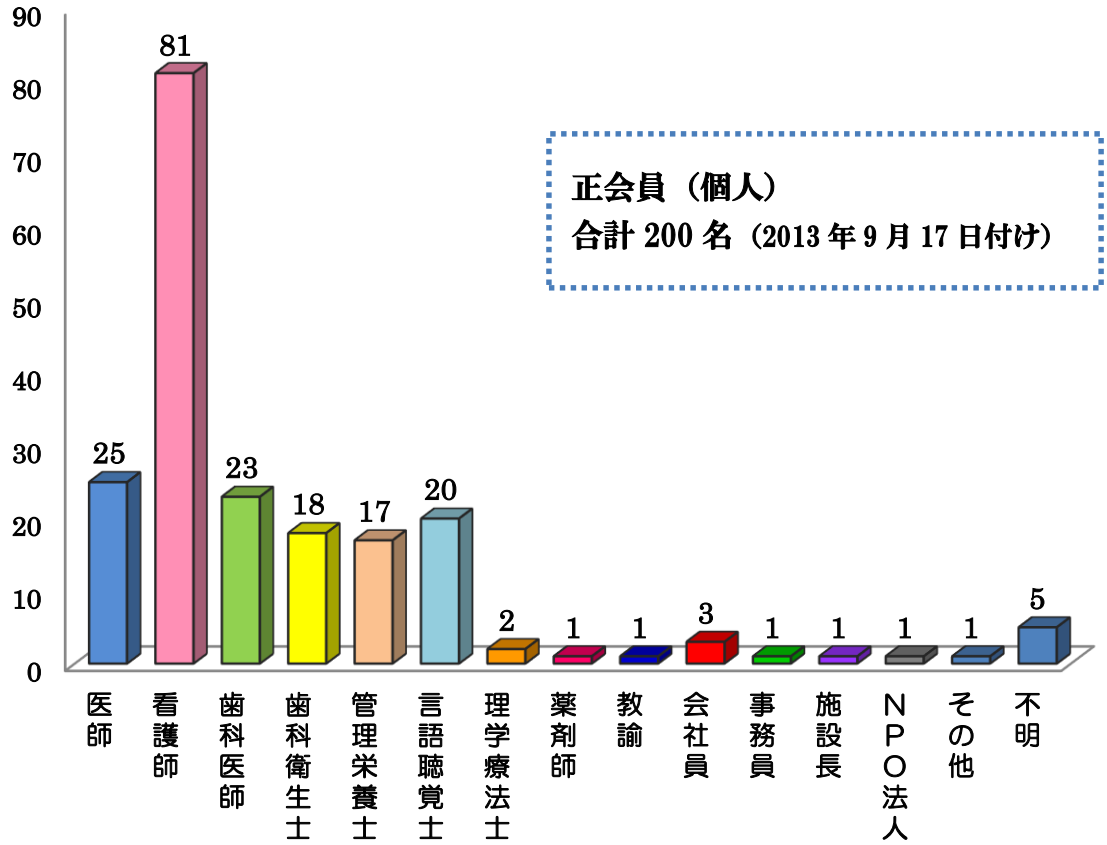
◆会員状況

当団体は神奈川県より2013年6月11日にＮＰＯ法人「口から食べる幸せを守る会」として認可がおりました。そして、開設以来、8月までに会員数180名（正会員・個人）となりました。当初の予想をはるかに上回る会員数の増加で大変嬉しく思っております。それと同時に当会に対する期待や使命感を重く受けとめています。皆様とともにさらなる発展を目指していきたいと考えております。

【　会員区分 内 訳　】　　(2013 年 9 月 17 日付け)

正会員（個人）	200 名
正会員（団体）	4 団体
賛助会員（個人）	0 社
賛助会員（団体）	9 団体

【　職 種 別 内 訳　】



【　都道府県別 内 訳　】

（2013 年 9 月 17 日付け）

北海道	1 名	東京都	15 名	滋賀県	0 名	香川県	0 名
青森県	0 名	神奈川県	35 名	京都府	3 名	愛媛県	0 名
岩手県	0 名	山梨県	3 名	大阪府	3 名	高知県	0 名
宮城県	14 名	富山県	2 名	兵庫県	2 名	福岡県	9 名
秋田県	1 名	石川県	9 名	奈良県	1 名	佐賀県	0 名
山形県	0 名	福井県	0 名	和歌山県	2 名	長崎県	9 名
福島県	1 名	新潟県	0 名	鳥取県	2 名	熊本県	9 名
茨城県	6 名	長野県	3 名	島根県	0 名	大分県	1 名
栃木県	1 名	岐阜県	3 名	岡山県	4 名	宮崎県	2 名
群馬県	1 名	静岡県	2 名	広島県	15 名	鹿児島県	3 名
埼玉県	8 名	愛知県	9 名	山口県	2 名	沖縄県	15 名
千葉県	4 名	三重県	0 名	徳島県	0 名	合計	200 名

◆会員の皆様の声

当法人への入会にあたり皆様１人１人にはさまざまな思いがあると思います。そこで少しですが、全国各地の皆様の入会動機をご紹介させていただきたいと思います

歯科衛生士　千葉

日頃から「口から食べてほしい」と願って仕事しています。そのためにまずは、手つかず、ほったらかし、あきらめの口に一人でも気付いてほしくセミナーや現場での仕事をしています。当会に入会することで志を同じくする方々との交流を望み入会を希望します。

会社員　　長野

家族が４年ほど前に、くも膜下出血後遺症、脳幹部出血後遺症のため寝たきりで在宅介護の状態（ＯＴ，ＳＴなど）です。気管切開をし、胃からの経管栄養をとっており、リハビリをして少しでも口から食べさせたいと考えていたため、入会を希望します。

医師　　福岡

第１回口から食べるしあわせを守る会に参加し、経口摂取がいかに大切さかを知りました。いままで医療側の都合で食べたくても食べられなかった患者がたくさんいたのはショックです。人間の尊厳を守る医療人になりたいです。

歯科医師　東京

ＮＨＫの番組を視聴させていただきました。以前より一生自分のお口で食事ができるようにサポートするのが歯科医の使命と考えておりましたが、現実には課題が多いとも感じておりました。番組の中、有病者の方のリハビリを実践され成果を出されているとの内容に感銘を受けました。是非、勉強の機会を頂戴できればと考えております。よろしくお願いいたします。

看護師　石川

ＮＳＴとして急性期病院で活動していますが、栄養療法のゴールは経口摂取であり、看護師が中心となってスキルを高めていかないと目標は達成できないと感じているからです。ＮＳＴは食べられる人の「食べない」や病態に関わる食支援が中心でしたが、これからは摂食嚥下障害にも深くかかわっていく必要があると感じています。そして、そういう啓発活動が重要であると思い入会を希望しました。

看護師　広島

小山珠美先生に、もっともっと、たくさんのことを教えていただきたい。
それは、技術、知識だけでなく、信念、思いやり、魂、トータルに学んでいきたい。

歯科衛生士　東京

私たちは今、人類始まって以来、未曽有の超高齢化社会に足を踏み入れています。確かに医療保障は充実して、だれもが長寿を甘受できるようにはなりましたが、チューブにつながれ命をただつないでいるだけ、の姿が果たして生きている、と言えるのか甚だ疑問です。「ただ長く命をつなぐ」よりは「よりよく生きる」人生のお手伝いをしたく存じます。

看護師　神奈川

現在療養病棟に勤務しています。ＰＥＧ造設、経鼻栄養患者様の受け入れをしていますが「口から食べたい」と希望のある方しか積極的に摂食嚥下訓練していない現状です。今回の大会参加を機に今後一人でも多くの人に口から食べてもらい、患者さまの笑顔を見たい、看護師として出来る事の成功体験をしたいと思い入会を希望します。

歯科医師　福岡

現在終末期の方の口腔ケアに関わっています。ご家族の方から一口で　も食べさせたいという　願いを叶えたいが自分自身の　スキルの低さのため間接訓練で終わってしまい結果を足せない患者さんが半分以上です。自分自身のスキルアップはかり、一人でも可能性の残っている方に一口でも食べていただきたく入会を希望させていただきました。よろしくお願いします

歯科衛生士　埼玉

医療人として、人の源である食べるということを生涯継続していけるようにお手伝いしていきたいと思っています。　今回の講演で小山さん、芳村さんのお話を聞き、更にその思いが強くなりました。少しでもお二人に近づけるように努力していきたいと思い入会させて頂きました。

理学療法士　石川

当院でもやっと今年から NST 活動が盛り上がってきたが、話題の中心がエネルギーの量（体重の増減など）など量的なことで口から食べるなど食事に関して、質的なところまでなかなかいかない。

看護師　静岡

現在当病院では、嚥下訓練士と連携して患者さんに提供していますが、摂食・嚥下について、まだまだ看護師の自分たちのほうが知識・技術が未熟であると日々感じています。もっとよりよいものを患者さんに提供できるよう、勉強をしていきたいと思いました。何より「口から食べる幸せ」ということに日々共感しております。

看護師　熊本

摂食嚥下に興味を持ち、学会で小山先生の講演を聞き、益々強い意志を持つことができました。もっともっと頑張って、一人でも多くの患者さまがたの幸せや生きがいを促進できる看護師になりたいと思っています。沢山の事を学ばせて頂き、継承していけるようになりたくて入会いたしました。

言語聴覚士　東京

完全療養の病院で働いています。患者本人や家族の食べたい、食べさせてあげたいという気持ちの強さ。また、食べることや味わえることで、患者さんにとてもいい刺激になることを日々実感しています。機能的には困難とわかっていても、味わいだけでもと望む患者や家族のために、少しでも安全な方法などをアドバイスしたい。そのための情報収集や交換の場として活用したいと思いました。

医師　長崎

超高齢化社会となった日本において、高齢者の生活の質を出来るだけ長く、高く維持するために、経口摂食は一番重要な事だと思います。

管理栄養士　東京

食べられないことを探すのではなく、どうすれば食べられるか？を考え、最後の最後まで口から食べる喜び感じられるようにすることを目標にしているところが、私の目標と同じだったので、入会して勉強させていただきたく入会させていただきます。

看護師　鳥取

現在日赤広島看護大学にて摂食・嚥下障害看護認定教育課程を受講しています。
以前から摂食・嚥下分野に興味があったのですが、認定教育課程で小山先生の講義を受け非常に感銘を受けました。自分のいる地域でも一人でも多くの患者さんに食べる喜びを感じてもらえるお手伝いができるよう、自分の知識と技術を深めたいと思い入会を希望しました。よろしくお願いします。

看護師　山口

「口から食べる」「食べ続ける」を支えたいという思いをもっているものの、実際、日々の関わりの中で技術が不十分で患者様へ介入が上手くできていない現状があります。「口から食べる幸せを守る会」の趣旨に賛同し、この会を通じて自己の技術向上を図り、地域の皆様に還元したいと思ったため。

看護師　奈良

家族が脳梗塞後遺症のパーキンソン症候群と嚥下障害で昨年より特別養護老人ホームに入所しています。食欲低下から胃瘻を作成して、4 か月になります。退院時より、施設に経口摂取の評価とリハビリを頼んでいるのですが、誤嚥性肺炎などのリスクを理由にいい返事が貰えず、残念で悔しい思いをしていました。看護師としても娘としても経口摂取を諦めたくなかったのと、本人に諦めさせたくなかったので、先日、奈良県での小山先生の講義を聞かせていただき、大変勇気を貰いました。このような会があるのを知り、今後さらに嚥下障害も含めて病気が進行するであろう父のために、できることはしたいと考え、入会希望させていただきました。

会社員　熊本

父が現在脳梗塞及びご嚥性肺炎後の嚥下状態の悪化にて医師からＰＥＧをごり押しされており、息子の私としては少しでも経口からの栄養を希望しておりますが、聞き入れてもらえず・・・歯痒い思いをしております。この入会を機会に少しでも父の今後の生活への一歩とつながればと思い、決意いたしました。

薬剤師　埼玉

埼玉県摂食嚥下研究会で小山先生、芳村先生のお話を聞いて入会を決めました。薬剤師も勉強しなくてはいけない分野だと思っています。よろしくお願いいたします。

歯科医師　愛知

これか日本が迎える超高齢化社会において歯科医師として、国民の健康を保持、増進するためには今までの虫歯、歯周病医療だけでなく、食べる喜びに寄与できるような歯科医療が必要になると思い、入会して色々な方々の経験、知識、お知恵をモチベイションにして今後の治療、指導に活かしたく入会申請させて頂きました。

◆ＮＨＫニュースウォッチ９で紹介

2013 年 7 月 12 日に NHK ニュースウォッチ９で東名厚木病院が特集されました。

“リハビリで驚きの回復が”

３年前に重度の脳梗塞で倒れた、佐藤貢（さとう・みつぐ）さん。

「つばとろうか、つば。」

ものが飲み込めなくなり、胃に入れたチューブから直接栄養をとることになりました。

食事ができるようにしてほしいと医師に頼みましたが、危険だと断られたと言います。

「しっかりごっくんよ、しっかり。」

ところが、別の病院に移り、あるリハビリを始めたところ再び食べられるようになったのです。

倒れてから４か月後には、１日２食のゼリーが。

８か月後には、ソフトキャンデーがかめるように。

そしてついに。

おかゆも食べられるまでに回復したのです。

佐藤貢さんの妻　千恵さん

「まわりの人、みんなで大拍手で、本当に涙を流しながら喜んで泣いた。」

核心：“口から”をあきらめない専門チームによる“口から食べる”リハビリ

佐藤さんにリハビリを行った東名厚木病院です。
脳梗塞などで救急搬送されてくる患者に、口から食べるリハビリを行う専門のチームを設けています。
看護師を中心に、言語聴覚士や歯科衛生士などがメンバーです。

リーダーの看護師、小山珠美（こやま・たまみ）さんです。
これまで多くの患者が、チューブで栄養をとる処置のあと、それに頼りっきりとなり、食べる力を失っていった姿を見てきました。
チューブに頼るやり方を変えられないか。小山さんは、再び口から食べられるようにするためのリハビリを手探りで始めたといいます。

東名厚木病院　小山珠美さん
「食べなくても生きていける、食べなくても栄養が施されると、食べさせなくなってしまった。むしろ食べたいと願っていても、食べられる力があると思っていても、食べることのリスクを並べ立てるような医療者が増えてきた。そこに問題を感じる。」

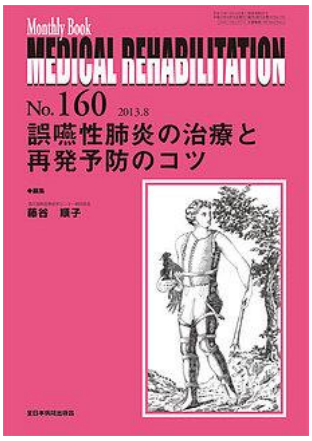
口から食べられるようにするために大切なのは、入院後すぐにリハビリを始めること。
チューブに頼ることに慣れてしまうと、のどや舌が動かなくなってしまうからです。脳障害で搬送されてきたこの男性。まず、とろみをつけた水を飲み込む力があるか聴診器をあてながら、慎重に判断します。
うまく行けば、次に固形物のゼリーを試します。
徐々に固いゼリーに変えていき、患者が今、どこまで食べる力があるか見極めていきます。その上で、のどに力を入れたり、口を動かす訓練を繰り返していくのです。
東名厚木病院　小山珠美さん
「食べる力は、どんどん失われていっているから、リハビリをするにしても、アプローチをするにしても、もっと時間がかかってしまう。急性期からやることが、患者の健康を回復する力を促進する原動力になる。」
この病院ではリハビリを行った患者の９割が、再び食べられるようになりました。そして、さらなる効果も。
脳梗塞など病気そのものからの回復も早まり、退院までの日数が平均４日間も短くなったといいます。

“食べる喜び　ふたたび”

小山さんの訓練を受け、再び口から食べられるようになった佐藤さん。病院を退院し、自宅で妻と暮らしています。
今では、好物のすしを食べられるようになっています。
箸を持つ右手。まひでなかなか動きませんでしたが、食べられるようになって腕にも力が入るようになり、今では自分で食事がとれるまでになったのです。
佐藤貢さん
「おいしいね。あきらめてなかった。生きがいを感じる。」　（NHK ニュースウォッチ９をそのまま引用してます）

その他メディア掲載情報

■メディカルリハビリテーション
誤嚥性肺炎の治療と再発予防のコツ



■琉球新聞
平成 25 年 8 月 26 日

■リハビリナース
2013 年 5 号

KTSM　第１回大会

2013年7月13日、横浜市開港記念会館にて、約500名の方々のご参加をいただき、大盛況のうちに会を終えることができました。

開会後、藤本篤士氏（札幌西円山病院歯科診療部長、歯科医師）による座長のもと、小山珠美理事長（東名厚木病院摂食嚥下療法部　部長、看護師）による大会長 基調講演「口から食べたいが叶う高齢社会の実現を！」が行われた。小山理事長は、生命の尊厳であり、人間の権利である「口から食べること」を主張するなかで、戦後の食糧難を乗り越えた一人の患者さんとの出会いを回顧。医療者側の問題で食べる幸せを奪ってしまった経験と、他の患者さんや家族にそのような経験 をさせないためにこれまで取り組んできたことを熱く語る姿に、会場の参加者が涙ぐむ様子も見られた。その後、午前と午後の部で4セッションが行われた。医師、歯科医師、看護師、管理栄養士それぞれの立場から経口摂取がもたらす患者さんのQOLの向上や早期退院などのデータが示されたほ か、口から食べる幸せを奪っている医療・福祉現場の現状に問題提起がなされるなど、「口から食べさせたい」という意識の高い医療従事者が一堂に会した会場は終始熱気に包まれた。

（クインテッセンス　そのまま引用しています）

KTSM

第１回実技セミナー

口から食べる幸せを守る会第１回大会の翌日（7 月 14 日）に、第１回実技セミナーを神奈川県立保健福祉大学（横須賀市）にて開催いたしました。この実技セミナーは、口から食べることが困難な方が口から食べられるようになること、食べ続けられるようになることを支援するために、支援者のスキルをアップするために企画しております。参加者は、これまでも摂食・嚥下のスクリーニング評価や食事援助の経験を持ち、よりスキルを磨きたいという医療従事者を対象としております。

参加者：45 名（職種別内訳：医師 4 名、歯科医師 2 名、看護師 23 名、言語聴覚士 9 名、管理栄養士 4 名、歯科衛生士 2 名、理学療法士 1 名）
（都道府県別内訳：沖縄県 10 名、宮城県 5 名、石川県 5 名、広島県 3 名、大阪府 3 名、鹿児島県 3 名、神奈川県 3 名、埼玉県 2 名、宮崎県 2 名、山梨県 2 名、岡山県 1 名、熊本県 1 名、東京都 1 名、愛知県 1 名、富山県 1 名、千葉県 1 名、和歌山県 1 名、順不同）

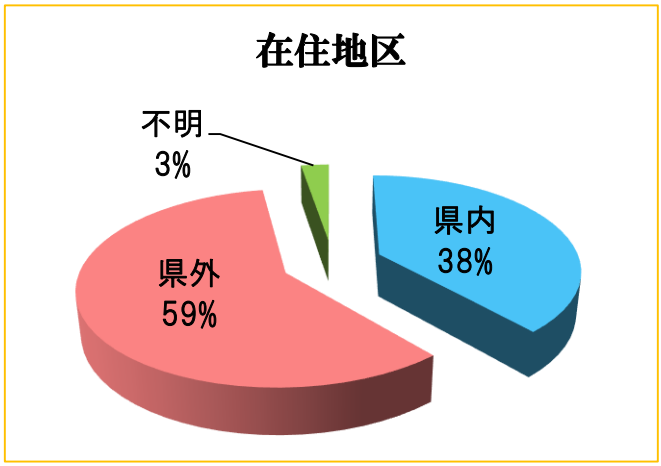
◆全国から寄せらせた相談

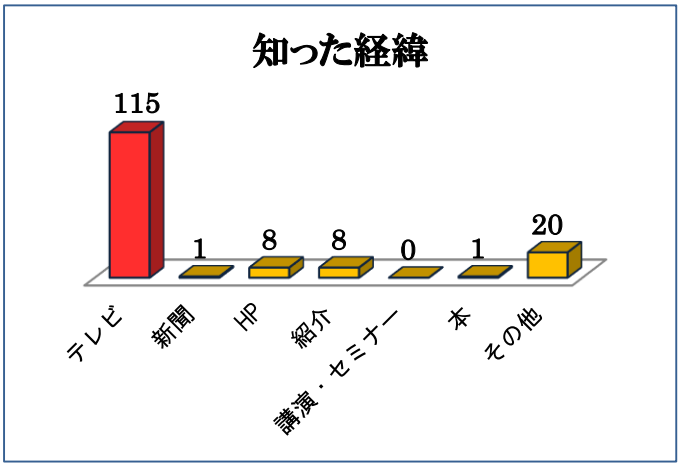
NPO 法人を立ち上げる以前から、東名厚木病院で摂食嚥下に関する電話相談を行い、2010 年 10 月～2013 年 3 月までで 179 件の電話相談がありました。下記のグラフは 2013 年 4 月～8 月までの 153 件の相談概要となっています。7 月 12 日に NHK で東名厚木病院・当 NPO 法人が取り上げられたことにより、放送後には全国各地から相談の電話やメールが殺到しました。

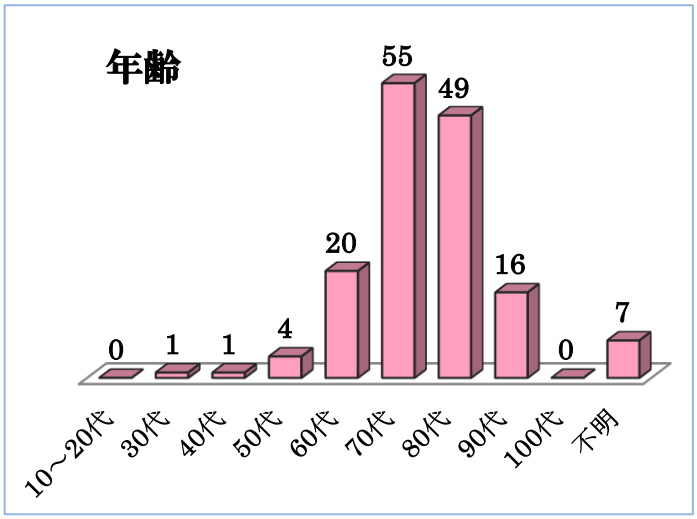
【東名厚木病院・当法人への電話相談概要 】

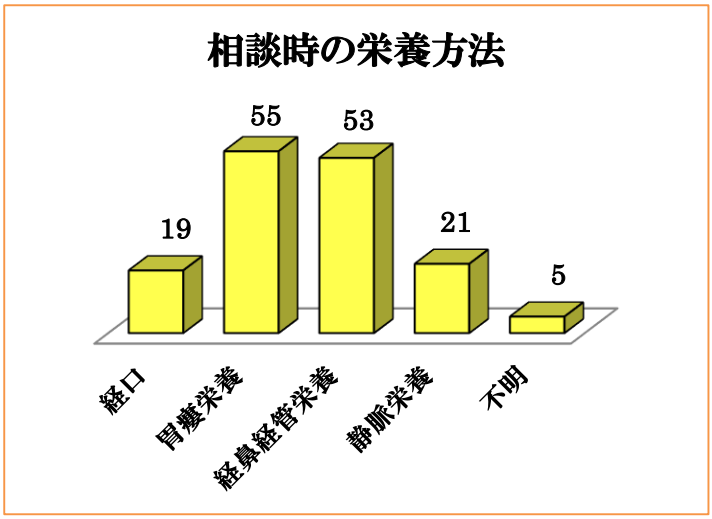
(2013 年 4 月～8 月までの 153 件)

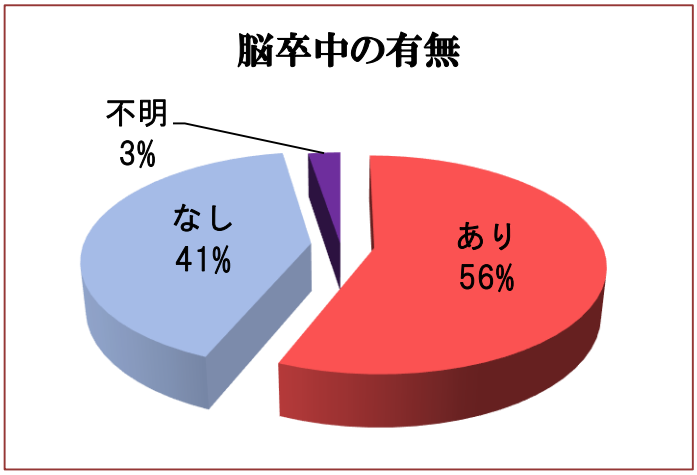
＊ＮＨＫ放送後 129 件、内メール相談 21 件

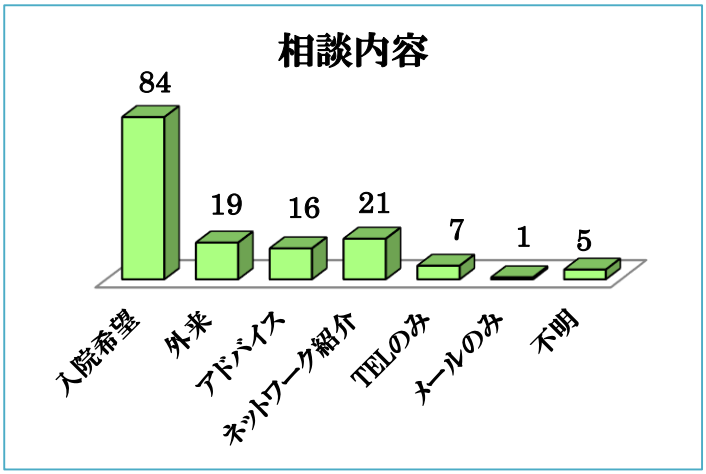


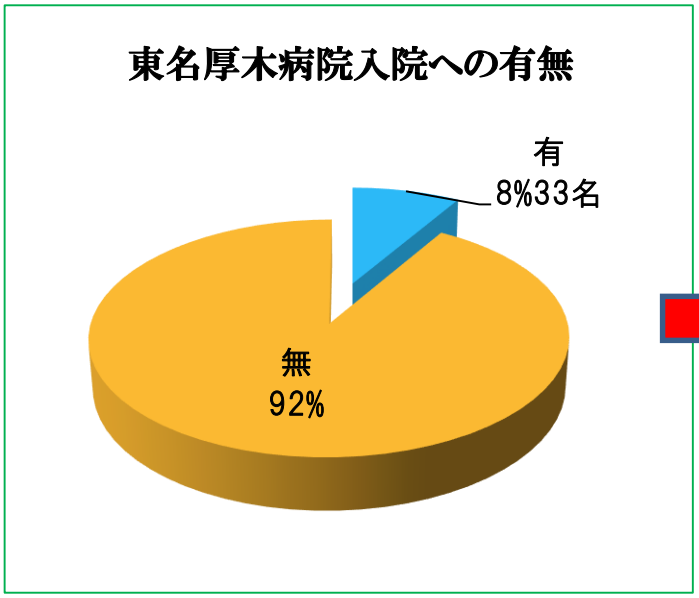


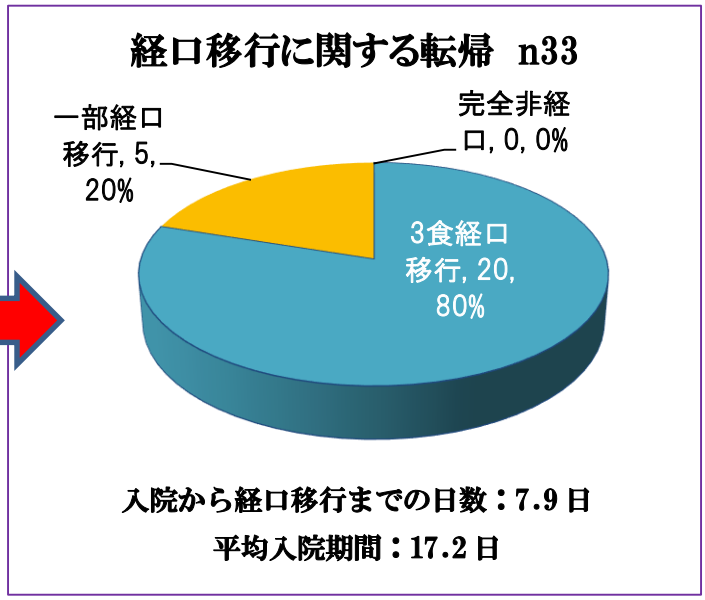

年齢
0
1
1
4
20
55
49
16
0
7
10～20代
30代
40代
50代
60代
70代
80代
90代
100代
不明


相談時の栄養方法
19
55
53
21
5
経口
胃瘻栄養
経鼻経管栄養
静脈栄養
不明


脳卒中の有無
不明
3%
なし
41%
あり
56%


相談内容
84
19
16
21
7
1
5
入院希望
外来
アドバイス
ネットワーク紹介
TELのみ
メールのみ
不明


東名厚木病院入院への有無
有
8%33名
無
92%


経口移行に関する転帰　n33
一部経口
移行, 5,
20%
完全非経
口, 0, 0%
3食経口
移行, 20,
80%
入院から経口移行までの日数：7.9 日
平均入院期間：17.2 日

◆人材育成(東名厚木病院での実務研修)

NPO 法人口から食べる幸せを守る会では東名厚木病院と協力して人材育成のための研修も行っています。今年の研修生をご紹介いたします。(9 月～12 月までの予定も含みます)

期間	職種	人数	都道府県	所属
2013/4/16～19	歯科衛生士	1	大阪	谷歯科医院
2013/4/23～24	看護師	1	広島	日本赤十字広島看護大学
2013/5/27～29	看護師	1	石川	市立輪島病院
2013/5/27～29	医師	1	石川	富来病院
2013/6/17～18	看護師	1	千葉	セントマーガレット訪問看護ステーション
2013/6/24～26	看護師	1	広島	広島市総合リハビリテーションセンター
2013/8/14～15	医師	1	長崎	医療法人昭和会　昭和会病院
2013/8/19～21	看護師 言語聴覚士	2 1	熊本	熊本リハビリテーション病院
2013/8/26～28	看護師 言語聴覚士 管理栄養士	1 1 1	熊本	熊本リハビリテーション病院
2013/9/9～11	看護師 管理栄養士	1 1	宮城	宮城県立循環器・呼吸器センター
2013/9/17～19	看護師 (大学教員)	2	長崎	活水女子大学
2013/9/30～10/8	看護師	1	愛知	協立総合病院
2013/10/15～17	歯科医師 歯科衛生士	1 1	東京	医療法人社団　永研会　訪問診療部仙川歯科
2013/10/21～23	歯科医師	1	神奈川	コンパスデンタルクリニック横浜
2013/10/28～30	言語聴覚士 歯科衛生士	1 1	宮城	気仙沼市立病院
2013/11/5～12	看護師 管理栄養士	3 1	沖縄	豊見城中央病院
2013/11/25～27	歯科衛生士	1	愛知	富田歯科医院
2013/12/ 9 ～11	看護師	2	愛知	JA 愛知厚生連知多厚生病院

研 修 風 景

ICU での評価
救急医師団見守り
「頑張れよ！」

２個持ち左手での
介助技術習得中
「絶飲食なんてナンセンス！」

嚥下造影検査

開口困難患者への
口腔ケア指導場面
「うがいさせるの難しい！」

医師も目線を確認し食事介助
「なるほど！口開けてくれた！」

重症肺炎患者へのフードテスト
「ドキドキする・・・」

お　つ　か　れ　さ　ま　で　し　た

食べたいを支えることができるよう挑みます！

～研修を終えて～

皆様から沢山の学びのメッセージをいただきました。紙面の都合上、8 名の方を紹介します

看護師

- 自分の行っていた技術、ケアが患者様の食べたい意欲を阻害していると痛感した。
- 患者様との関わりや笑顔、レベルアップしていく姿をみると経口摂取の必要性が分かった。
- 当院での ST による評価時、必ず同席しリスク管理を含めて嚥下評価を行える体制を作っていきたいと思う。
- 食事介助も角度や姿勢で開口や嚥下に大きな違いが出ることに驚いた。
- 食形態アップのスピードの違いを見直したい。
- クルリーナブラシの使い方を学んだので今後実施していきたい。
- ST にて評価をしているが看護師は全く関わっていないため、まずは ST の評価に入るような体制を作っていきたい。

看護師

- 食事介助も角度や姿勢で開口や嚥下に大きな違いが出ることに驚いた。
- 食形態アップのスピードの違いを見直したい。
- クルリーナブラシの使い方を学んだので今後実施していきたい。
- ST にて評価をしているが看護師は全く関わっていないため、まずは ST の評価に入るような体制を作っていきたい。

言語聴覚士

- 毎日の研修内容が充実しており大変勉強になりました。
- 対応や判断のスピード、タイミングが重要であることを改めて感じました。
- 評価時の体制（2 人で評価）は自分の病院で取り入れたいと思います。
- 嚥下患者に対する口腔ケアの注意点や技術を学ぶことができ、臨床に活かします。
- 口腔ケアや摂食訓練に使用する物品を病院で備えておくことが必要であると痛感し、自分の病院に提案したいと思います。
- 熱い思いを持って患者に対することの意味を学びました。

看護師

- 患者アセスメントはできるが嚥下評価になると、全くできなかった。初日に比べると 3 日目の嚥下評価はできるようになった。
- 手順や準備物（おしぼり、冷水、M.C セット）忘れがあり、段取りがきちんと 3 日間行えなかった。
- M.C の手技、技術不足、病院に帰ってしっかり練習していく。
- ポジショニング、角度、介助スピードがとても勉強になった。3 日目はポジショニング、介助が少し上手にできるようになり、食べ物をみせて左手でスプーンを持ち、口腔に入れる！ちょっとできるようになりました。3 日間緊張しましたが、新しい情報をたくさん学びとても楽しく実習させていただきました。次回実技セミナーがあるときは「上手になったよ」と言われるようにしっかり実技を覚えて参加したいと思います。

言語聴覚士

- 介助技術次第で食べる量や形態などかえることができる。
- 判断しだいでその後が大きく変わってします。
- アセスメントが大事ということに改めて気づいた。
- 職域にとらわれるとうまくいかないことが多い。
- 必要物品をいつでもすぐに使えるように準備されている。
- 複眼視的な見方をいつも意識できるようになる。

医師

・当院ではまだ最初のステップである「経口摂取の可能性を身体的機能とケアの実施可能性の面から十分に評価する」ですら、十分とは言えないと思います。
今回、日本最高のレベルで「経口摂取の可能性の評価と、経口摂取を見込むための工夫、そして継続的な努力」をされておられる貴施設での実習はとても有意義なものでした。
貴院で勉強をさせて頂いた事を、まずは自分の日常診療で一つ一つ思い出しながら実践をして行きたいと思います。

管理栄養士

現場経験も１年しかなく、知識だけでなく患者さんのケアの仕方も分からないような研修生を受け入れてくださりありがとうございました。研修では、全身のアセスメントがいかに重要であるか痛感しました。認知症はあるかマヒはあるかどこまでの介助をすればよいのか、プロセスモデルのどこに問題があるのかそれは疾患の影響なのかなど講演会でもあったように五感をフルに使えば、アセスメントすることも食事を開始することもできるということを実感することができました。今まで、”評価してくれる ST や DR.がいない”、”VF もできない”そんなことを言い訳にしていただけであったと思いました。また、私は管理栄養士ですが研修中「NST って一体何をしているんだろう？」と何度も思いました。輸液や経腸栄養剤の検討は食べていなくても大丈夫にするための検討にしか見えませんでした。職場に戻ったら自分の中の守備範囲、立ち位置も忘れずに多職種で患者さんの「食べたい」という願いを叶えていけるように動いていきたいと思います。

看護師

実務研修に参加するまでは、口腔ケア・嚥下ケアの技術を習得したいと考えていたが、参加して自分の考えが根本的に間違っていることを実感した。口腔ケアにしても食事介助にしても、ルーチンな事ではなく患者１人１人の病態や現状を細かく観察しアセスメントすることでその患者に何をどうすることが必要なのかを見ることが大切なのだと気付いた。口腔ケア、食事介助が非常にスピーディーであるがその早さにも意味がある。必要なことはその患者に応じた基本的なケアを１つ１つ確実に行っていく事だと思うが、その早さの為に介助のたびに大事な１つ１つが抜けてしまっていた。今後はさらに病態の理解を深めた上で患者に今、必要なものは何かを常に考えたケアをしていきたいと思う。

◆ありがとうの声

電話相談を受け、東名厚木病院に入院し、無事食べられるようになって退院された患者様（ご家族）からこんな嬉しいお手紙をいただきました。

【4 ヶ月間経鼻チューブによる栄養のみでしたが、3 週間で口から食べられるようになりました！】
この度は、東名厚木病院に入院できましたこと本当に感謝しております。おかげさまで夢のように日に日に良くなり、口からゼリーなど食べられるようになりました。また、入院してから主人が突然、「前の病院とは全然違う」と言葉にしました。やはり何かを感じたのでしょう。山下先生、小山さん、芳村さんがすぐに来てくださり、口の中をきれいにしてアメや水などをふくませていただいたことで気持ちも落ち着き、本人はとても嬉しかったようです。いろいろとあれこれ変えて治療に全力を尽くしてくれました先生、摂食嚥下チームの皆様の努力の賜物です。誠にありがとうございました。前の病院の時はもうダメかもしれないと弱気だった主人も明るく元気になりました。退院後は、残り少ない人生を毎日大切に頑張ろうと思います。

【9 ヶ月間ほぼ胃ろうからの栄養でしたが,9 日で口から食べられるようになりました！】
摂食嚥下療法部の皆様　この度は、誠にありがとうございました。
皆様のおかげで私たち家族に幸せが訪れました。感謝申し上げます。

写真の掲載はご本人･ご家族の許可をいただいています

◆事例から学ぶ！　食べることへのチャレンジ

「口から食べること」への支援を普及させていくためには、関わった事例を皆で共有し、知識と技術を高めていくことが必要です。ここでは、前ページ「ありがとうの声」に紹介しました患者さんへどのように関わったのか、外来から９日間の摂食嚥下訓練入院の概要について、ご紹介いたします。　　（東名厚木病院摂食嚥下療法部　芳村直美）

事例紹介　Ｎさん

Ｎさんは、８７歳の男性です。平成２４年１１月に下肢深部静脈血栓症と肺梗塞で倒れるまでは、自宅で自立してご長男さんたちと住んで居ました。しかし、上記診断で、Ａ病院入院中に脳梗塞を合併、左片麻痺となりました。また、嚥下障害と言われ、胃瘻造設、その後、Ｂ回復期リハビリテーション病院へ転院し、６ヶ月間リハビリを行った後、有料老人ホームに入居されました。有料老人ホームに移ってからも、経口摂取はゼロで、胃瘻のみでの栄養・・・・。本人とご家族は、「口から食べることを諦めたくない！」との思いで、嚥下を診てもらえる病院を必死に探したとのこと、東名厚木病院へ電話相談をされてきました。電話で娘さんとお話し、まずは外来受診しましょうということになりました。

「蒲焼、食べたい」
嚥下外来から９日間の嚥下パス入院へつないだケース
「経腸栄養から経口摂取完全移行となった 87 歳高齢者」

＜A 急性期病院＞H24 年 11 月に下肢深部静脈血栓症、肺梗塞で A 病院へ入院。入院中に脳梗塞発症、「食べる訓練をするために、胃瘻を作ったほうが良い」と勧められ、胃瘻を作りました。しかし、「経口摂取は危険」と判断され、基礎訓練のみで摂食訓練はゼロでした。

＜B 回復期リハビリテーション病院＞H24 年 12 月に B リハビリテーション病院に転院し、6 ヶ月間を過ごしました。ここでは入院中に歯科医師が嚥下造影を行い、摂食訓練を開始しました。しかし、ミキサー食を 1 食、食べていたが、「美味しくない・・・」との訴えあり、食欲低下し、再度胃瘻がメインとなってしまいました。

＜C 有料老人ホーム＞H25 年 6 月上旬に C 介護付有料老人ホームに入居しました。C 有料老人ホームでは経口摂取がゼロになってしまいました。この対応に納得が行かず、食べさせて欲しいと強く訴えました。しかし、医師から「前の病院（B リハ病院）では、歯科医師の評価だったので、正式な嚥下評価とは言えない。きちんとした専門病院で診てもらわなければ、食べさせることはできない。」と説明されました。看護、介護職からは、「胃瘻があるのだから、食べることは危険」と言われ、経口摂取は許してもらえませんでした。

＜娘さんからの相談電話＞これまでの経緯を話してくれました。また、これまでに肺炎を合併したことはないこと、痰もなく呼吸も落ち着いていること、日中は車椅子で過ごしており、毎日娘さんが面会に行って、舌の体操や唾を飲む練習をしていることなども教えてくれました。外来受診の手続きを伝え、外来で嚥下機能を評価することを決めました。

＜外来受診＞電話相談から 2 週間後、7 月上旬に診療情報提供書をもって、N さんと娘さん、息子さんの 3 人で嚥下外来に来られました。外来担当医の診察後、ベッドに移り、フィジカルアセスメントと嚥下機能評価（非 VF 系ベッドサイドスクリーニング評価）を実施しました。

＊＊＊＊＊フィジカルアセスメントと嚥下機能評価＊＊＊＊＊

RSST は 1 回/30 秒、MWST3 点（トロミなしでは軽いムセがみられるが、0.5%程度のトロミをつければ、ムセなしで嚥下できる。追加嚥下は 1 回可能）、FT4 点（ムセなしで嚥下でき、口腔内残留もなし。追加嚥下も 1 回は可能）、30 度、45 度、60 度のリクライニング角度で評価し、いずれも同様でした。

MWST、FT ともに頸部聴診併用し、咽頭通過音の左右差なく、残留音も聞かれない状態でした。また、SAT98%を維持しており、酸素化も良好でした。左顔面神経麻痺は軽度で口唇閉鎖可能で、頬ふくらませも弱いができました。軽度の構音障害を認めたが、舌の偏倚はなく、軟口蓋の挙上も良好でした。歯は上下義歯で、やや緩いが使用は可能な状態でした。
左片麻痺はあるが、右手は動き、スプーンの把持や口まで持っていく動作も姿勢を安定させれば行えることも確認しました。

N さんは、「うなぎとケンタッキー・フライド・チキンが食べられるようになりたい」と喋ってくれました。胃瘻からは、水分と 1200kcal/日の経管栄養が入っている状態でした。

＊＊＊＊＊嚥下外来における評価者の判断＊＊＊＊＊

まず、電話相談の段階で得た情報から推測できたことは、高齢であるうえに食べていないことによる廃用の可能性はあるかもしれないが、N さんの嚥下機能はある程度保たれていると思われました。なぜなら、6 月上旬に C 有料老人ホームに入居するまでは、ヨーグルトやプリンを少しずつ食べていたからです。つまり、経口摂取ゼロとなってから、まだ 1 ヶ月しか経っておらず、娘さんが毎日基礎訓練を必死に行っていることも、食べられる可能性をつないでくれていると思いました。また、入院する前までは自立した生活をしており、家族と一緒のものを食べていたことも強みと思えました。

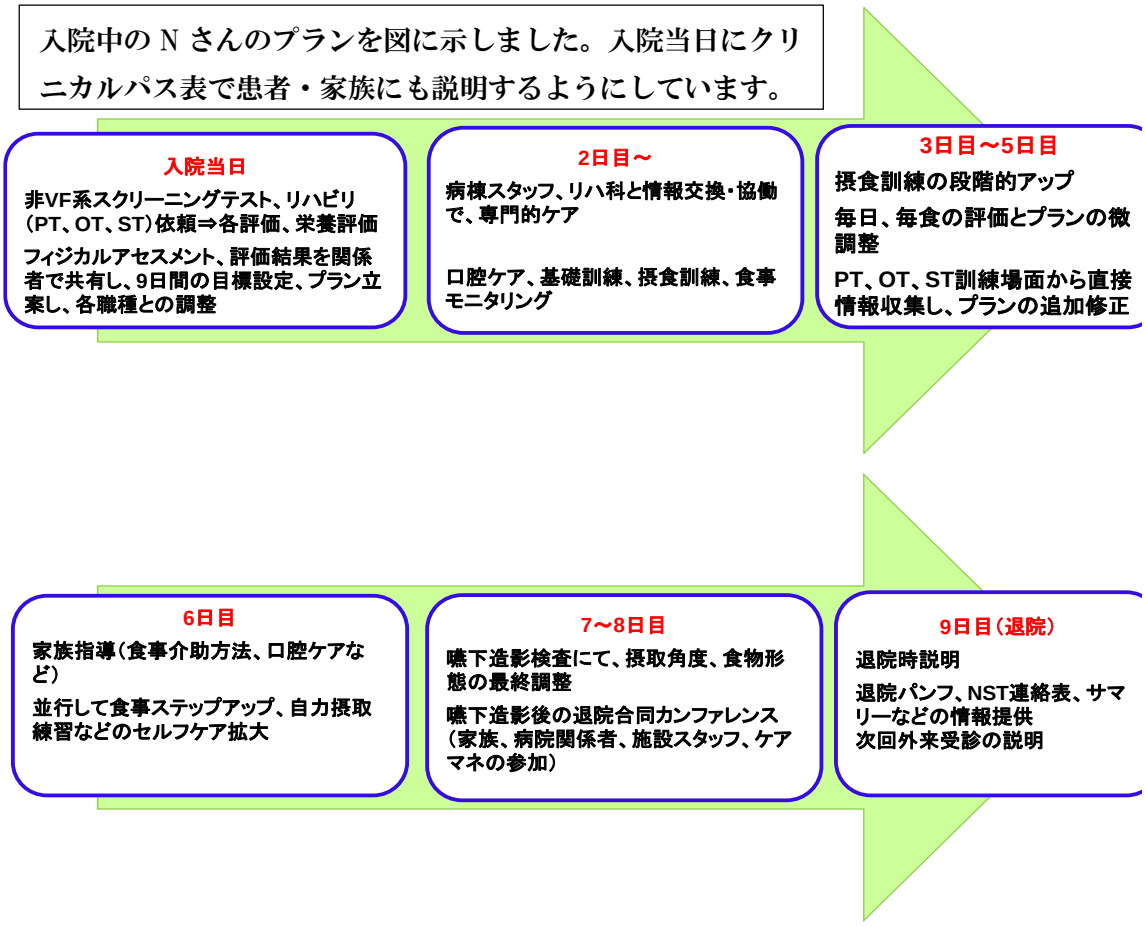
実際、外来での評価結果をみても、嚥下機能は経口摂取スタートできる程度は保たれており、一側性の大脳病変であることから、段階的な摂食・嚥下訓練を行えば、完全に経口摂取へ移行可能と予測できました。このように、経口摂取可能と判断したが、C 有料老人ホームには、段階的に経口摂取を進めていける人材も食事形態もないことが、次なる問題として浮上しました。そこで、N さんとご家族、外来担当医と話し合い、東名厚木病院に短期間入院し、嚥下訓練を行うことを決めました。入院期間は 9 日間を予定すること、入院はできるだけ早いほうがよいことを伝え、1 週間後予約入院の手続きをとりました。

そして、少しでも廃用予防と本人の食べたい気持ちを満たすことができるようにと考え、入院までの 1 週間のあいだ、娘さんにゼリーの介助方法を教え、面会時に食べさせてもらうように調整しました。

＜嚥下訓練入院＞3 食経口摂取を目指し、嚥下訓練目的で東名厚木病院に入院しました。入院期間は初めから 9 日間を設定しました。「食べること」の訓練は、3 食経口摂取すれば、一日 3 回できる。つまり、9 日間あれば 27 回練習が行えることになる。外来の N さんの様子から、毎日ステップアップすることが可能と思われたため、9 日間あれば 3 食経口摂取で胃瘻は使用せず、自力摂取までいけると考え、プランを立案しました。

＊＊＊＊＊9 日間の訓練プランの概要＊＊＊＊＊

入院中の N さんのプランを図に示しました。入院当日にクリニカルパス表で患者・家族にも説明するようにしています。



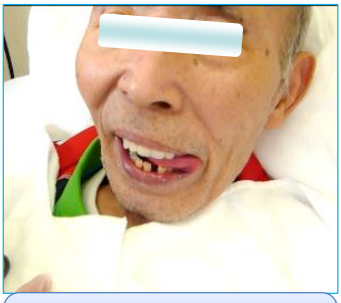
初めから退院日を設定することで、ゴールの日が明確となるため、プランが立案しやすくなります。また、今回のように 9 日間という短期間で成果を狙う場合、毎日ステップアップしてこそ、目標達成に至ることができます。そのためには、各専門職種同士の情報交換とタイムリーな介入がポイントです。多職種が連携を図ることができれば、単一職種で関わるよりも、アイデアが出し合え、複数の目で見ていくことでリスク管理も充実できるからです。

N さんの場合も、摂食嚥下専従看護師（N さん担当）が、中心となって 9 日間のプランを立案し、病棟スタッフ、各専門職種と毎日微調整を行うようにしました。例えば、形のあるものを食べる段階の前には、事前に作業療法士と連絡をとり、リハビリ室での訓練に箸の練習を取り入れてもらうなどの調整をはかり、実際のリハビリ場面に同席し、実際の食事摂取に活かせるようにするなどの動きをします。

退院調整においては、施設側とケアマネに退院前に連絡をとり、嚥下造影や食事場面を見学してもらうなど働きかけて、連携強化に努めます。

パス入院1日目

左口角下垂軽度あるが、頬膨らませ可能.
口腔ケアはぶくぶく嗽OK



挺舌時左に軽度変異するが、左右変わらず側方運動可能

MWST実施. ベッド角度30度から開始、トロミ水、トロミなし共に4点レベル

ゼリーでFT実施. 30度で行い、口腔内残留もなし. 4点レベル

角度を45度に上げて、右手でゼリーを持たせ段階的に摂取動作も評価

主治医による診察.
本人、家族と一緒に目標設定の共有

パス入院2日目～5日目

ドロップスを使った飴なめ. 舌運動の強化

スプーン把持し、ゼリーをすくう練習. ゼリー食を全介助で摂取

リクライニング車椅子に乗車.
交互嚥下でリズムよく介助

味の楽しみ、噛む喜びキャラメルコーンでの咀嚼訓練

リクライニング角度60度まで上げて、摂食動作アシスト. OT同席し情報共有

形のある食べ物を目指し、箸操作の練習. （OTリハの場面）

パス入院6日目～8日目

家族による食事介助（受け持ちナースがアドバイス）

土用丑の日に蒲焼を食べた．念願が叶った

牛乳のストロー飲みもOK．広いテーブルで姿勢の安定をはかる

箸を使って、自力摂取

8日目に嚥下造影実施
結果は、舌の送り込みがやや弱いが他は、正常

VF後に、家族を交えた関係者カンファ．施設との連携調整

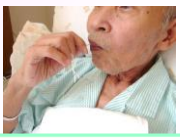
＊＊＊＊＊退院時パンフレットの一部を紹介＊＊＊＊＊

Nさんのご様子
「食べる」リハビリ頑張っています！！

作成：東名厚木病院摂食嚥下療法部
芳村直美

飴なめ

舌の動きを良くするために、飴なめをしています。



＜方法＞
①穴あきドロップにデンタルフロス（歯間掃除用の糸）を通し、手で持てるように輪を作ります。
②輪にした糸を手に持ち、舌の上で飴を転がしながら舐めます。
③舐めるときは、口を閉じます。

キャラメルコーンや柔らかせんべいでの咀嚼訓練

咀嚼することで舌の動きも促し、食塊形成のちからを高めるようにしています。

＜方法＞
①咀嚼すると唾液で溶けやすいお菓子類を用います。
キャラメルコーン、えびせん、ばかうけせんべい、などは、咀嚼しやすく口にも残りにくいため、お勧めです。
②歯で噛み、柔らかくなったら舌を使って集めて飲み込んでもらいます。
③咀嚼するときは口を閉じること、しっかりと噛むこと

水分のストロー飲み、コップでの一口量の調節

ストロー飲みも口をしっかり閉じることを意識して、できています。

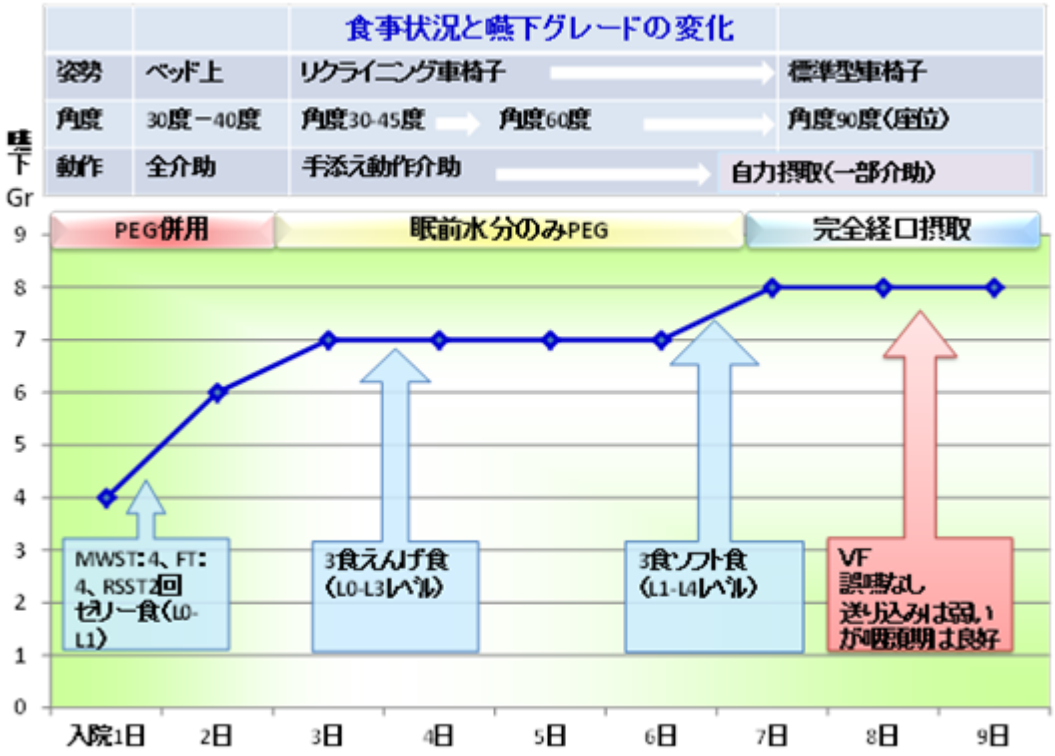
＜ストロー飲みの方法＞
①左麻痺があるため、左側口の閉じが少しゆるいですが、口をしっかり閉じることを意識して、ストローを加えてもらいます。
②テーブルに肘を付けて、姿勢を正し、前を向いて飲むことを声がけします。下を向くと口の閉じも悪くなりますので注意してください。
＜コップやおわん飲みの方法＞
①前傾姿勢にならないように注意しながら、一口ずつ飲んでもらいます。自分ひとりで飲むのはまだ難しいため、少し動作の介助をお願いします。

食事に嗜好を取り入れた摂食訓練

ソフト食（まとまりやすい食物形態、嗜好を取り入れた訓練は、効果がアップします。

＜ポイント＞
①嗜好の食品は、食べる意欲をアップさせ、効果的な摂食訓練となります。
②パサパサしたものや細かく刻んだもの、噛みにくいものは、避けてください。
③うなぎのように柔らかく口当たりの良い味覚を刺激するものは、Nさんに合っています。

＊＊＊＊＊入院中の経口摂取拡大の推移＊＊＊＊＊



＊＊＊＊＊退院後の様子＊＊＊＊＊

退院後は、東名厚木病院の外来で１回/２ヶ月フォローをすることにしました。外来では、次なる目標にしていたケンタッキー・フライドチキンも食べることが出来ました。入院中よりも舌の動きは良くなっており、食塊形成力もアップしていました。食べることを３食継続することの効果といえます。

さらに、嬉しいニュースです。N さんが胃瘻を抜去しました。最初に入院した A 病院（胃瘻を造った病院）で、抜いてもらいました。

Nさんとの関わりを振り返って、KTSMメンバーに伝えたいこと

皆さん、読み終わってどのような感想をお持ちになられましたか？紙面を通じて、Nさんへの外来から入院中の関わりについて、私のそのときの判断や思考も含めながら紹介させて頂きました。不足な点はあるかもしれませんが、経口摂取ゼロの患者さんをどうやって、３食経口摂取（自力）にまでもっていくかという流れをわかっていただけたのではと思います。

私が最後に皆さんにお伝えしたいことは、「自分の目の前にいる患者さんの、自分が最終砦」と思って、必死にその人を救ってください。自分ひとりでムリならば、仲間（チーム）と一緒に力を合わせてください。

KTSMは、全国に広がる仲間です。これから、力をあわせて「食べる」に取り組んでいきましょう。

◆KTSM 今後の活動概要

＜研修会＞

北陸支部研修会	
日時	2013 年 10 月 13 日（日）13：30-17：00
場所	石川県金沢市文化ホール
オーガナイザー	野口晃（医師）

九州支部研修会	
日時	2014 年２月９日（日）
場所	後日ホームページ上でアナウンスします
オーガナイザー	横山信彦（医師）・嶋津さゆり（管理栄養士）

＜実技講習会＞

気仙沼実技セミナー＜会員・非会員＞	
日時	2013 年 11 月 16 日（土）　9:00～13:00
場所	気仙沼市立病院 〒988-0052　気仙沼市田中 184
料金	会員：4.000 円　非会員：8.000 円
定員	40 名
対象	医療・福祉従事者

第２回実技セミナー＜会員限定＞	
日時	2013 年 12 月 14 日（土）　9:30～16:30
場所	日本赤十字広島看護大学 〒738-0052　広島県廿日市市阿品台東 1-2
料金	15,000 円
定員	40 名

第３回実技セミナー＜会員限定＞	
日時	2014 年３月 15 日（土）
場所	神奈川県立保健福祉大学 〒238-0013　神奈川県横須賀市平成町 1-10-1
料金	未定
定員	未定

◆ＫＴＳＭ運営委員一覧

氏名	職種	在籍地	所属
小山珠美	看護師	神奈川	東名厚木病院
横山信彦	医師	福岡	誠愛リハビリテーション病院
安西秀聡	医師	埼玉	イムス三芳総合病院
青山寿昭	看護師	愛知	愛知県がんセンター中央病院
荒金英樹	医師	京都	愛生会山科病院
安東則子	看護師	富山	市立砺波総合病院
石井良昌	歯科医師	神奈川	海老名総合病院
一瀬浩隆	歯科医師	宮城	山谷歯科医院・東名厚木病院
内片健二	医師	山梨	日下部記念病院
内間全美	看護師	沖縄	先島摂食嚥下研究会
江頭文江	管理栄養士	神奈川	地域栄養ケアPEACH厚木
大石朋子	大学教員	神奈川	神奈川県立保健福祉大学
大城清貴	看護師	沖縄	豊見城中央病院
奥村圭子	管理栄養士	愛知	在宅栄養支援の和・愛知
甲斐明美	看護師	神奈川	東名厚木病院
川島実	医師	宮城	気仙沼市立本吉病院
川端直子	看護師	広島	広島市総合リハビリテーションセンター
黄金井裕	言語聴覚士	神奈川	東名厚木病院
小山碧	事務局	神奈川	KTSM事務局
嶋津さゆり	管理栄養士	熊本	熊本リハビリテーション病院
社本博	医師	沖縄	沖縄県立八重山病院
白坂誉子	看護師	千葉	セントマーガレット訪問看護ステーション
田久浩志	教授	東京	国士舘大学大学院救急システム研究科
竹市美加	看護師	広島	ＪＡ広島総合病院
竹末加奈	教授	長崎	活水女子大学
谷合久憲	医師	秋田	本荘第一病院
谷恭子	歯科衛生士	大阪	谷歯科医院
田村佳奈美	管理栄養士	福島	フリー
為季周平	言語聴覚士	岡山	金田病院
中村悦子	看護師	石川	市立輪島病院
成田徳雄	医師	宮城	気仙沼市立病院
野口晃	医師	石川	富来病院
野村直樹	医師	神奈川	東名厚木病院
福村美紀子	栄養士	石川	ワールドトラストメディカル
藤本篤士	歯科医師	北海道	札幌西円山病院
古屋聡	医師	山梨	山梨市立牧丘病院
洪英在	医師	愛知	国立長寿医療研究センター
水戸優子	大学教員	神奈川	神奈川県立保健福祉大学
三村卓司	医師	岡山	金田病院
山下巌	医師	神奈川	東名厚木病院
吉田貞夫	医師	沖縄	沖縄リハビリテーションセンター病院
芳村直美	看護師	神奈川	東名厚木病院

Vol. 1 No. 1　食べる

発　行　日　2013年９月２０日

発行責任者　NPO 法人「口から食べる幸せを守る会」
〒243-0034 神奈川県厚木市船子 131-1

編　　集　「食べる」企画・編集委員
NPO 法人「口から食べる幸せを守る会」　理事長　小山珠美
副理事長　安西秀聡
理事　芳村直美
理事　小山碧

編集・製本　NPO 法人「口から食べる幸せを守る会」事務局

＊会員以外による本会報誌の無断コピーや使用については著作権の関係上固くお断りいたします。